



分業階級が暮らす住宅地に完成したコミュニティセンター。地域を活性化するための機能が集約されている。

モダンイズム精神が息づく、
ダブリンの最新建築案内。

「ケルトの虎」と称されるほど、ここ10年余りで、経済的な大発展を見せたアイルランド。それを象徴するのがドブリン地区を経済と文化の新センターとする一方、周辺に暮らす庶民の居住地域も活性化しようという大規模な計画だ。その一環でこのほど完成したのが、この「ジョン・オケイシー・コミュニティセンター」(写真)である。設計はアイルランドを代表する建築家フリス、オドネル&トーマス。スタッフのローラに案内してもらった。

「お年寄りのためのデイケアセンターと、保育所、シアター、ジムなどの設備を一つにまとめた地域住民のための施設です。子供とお年寄りの自然な交流を促すため、館内の各施設は中庭を仕切りにする程度で、分離しないデザインになっています。

ローコストながらディテールまで丁寧なデザイン。地中熱を利用した空調システムなど最新のテクノロジーを採用し、廊下には自国産の植物だけを植えるなど「コロシー」面にも配慮してある。採光のために外壁と屋根に切り抜かれた円窓は、デザイン的なアクセントにもなっている。機能とデザインを融合させた作品からは「建築は人々の生活を向上するためのもの」というモダンイズムの精神が伝わってくる。「ダブリンにはモダンイズムの巨匠、ルイス・カーンの影響を受けている建築家が多いんです」。実際、ダブリンには優れたモダン建築が多い。モダンイズムの伝統がここには脈々と受け継がれている。

現代建築にも注目したい、 アイルランドの現在。





機能とデザインが融合した、
モダニズム的な秀作。

**Sean O'Casey
Community Centre**

**シヨーン・オケイシー
コミュニティセンター**

テンブルバーの「写真ギャラリー」など、コンクリート構造の優れた建築で受賞も多いオドネル&トーメイの設計。ダブリンの労働者階級を支援した劇作家、シヨーン・オケイシーにちなんで命名された庶民のためのコミュニティセンターだ。お年寄りのデイケア施設、保育園のほか、シアターとスポーツ施設などの複合施設になっている。中庭を効果的に使った開放感のあるデザイン。2月ごろにオープン予定。

●St. Mary's Road, East Wall, Dublin 3

